



平成 30 年 5 月 25 日
佛教大学附属幼稚園

みかんの色はどんな色

園長 田中典彦

園長として迎えていただいてから 2 ヶ月がたちました。大学とはちがって、かわいいこどもたちに囲まれてとっても幸せな 1 日を過ごすことができます。最初はこどもたちに受け入れてもらえるのか不安だったのですが、すぐに仲良くしてくれました。水曜日には一緒に昼食をとれることとなりました。先日あるクラスでこどもたちとお弁当をたべたのです。「園長せんせい、僕と一緒に、イヤわたしと一緒に」とさそってくれて、さてどうしたものかと思案していたら、「うん、今日はそっちでいいよ」ってゆずりあってくれて、まずびっくり。

食事が始まると、ロクにいろいろと話してくれるのです。自分の名前から、好きな食べ物、おとうさんやおかあさんのこと、友だちのことなどです。そして「園長せんせいはどこからきているの？食べ物は何にがすき？」わたしのことも話題になりました。もうすっかりおともだちって感じです。

私の方から聞いてみました。「みかんの色はどんな色？」。すると女の子が「園長せんせいはみかんの色を知らないの？」と言いました。「うん、園長せんせいはみかんの色を知らないから教えてね」というと、「あのね！みかんの色はネ、みかんの色なの」と教えてくれたのです。正解です。実はこのようなことをずいぶん前に他園でも聞いてみたことがあったのです。同じような会話だったことを記憶しております。

わたしたち大人はどうでしょう？「みかんの色はどんな色？」と聞かれたら、おそらく多くの方は、黄色やオレンジ色と答えるだろうと思います。そうでしょうか？これからがみかんの花の咲く季節です。よく観察してみてください。



白い小さな花が咲きます。その花が散ってゆくとそのあとに小さなみかんの実がつきます。どんな色をしているのでしょうか？生まれたてのきれいな緑なのです。それが夏の頃には、遠くから見ると黒に近いほどの深緑となるのです。やがて秋風が吹くころになれば、また緑色となり、そして十月になって冷たい風にあたって黄緑となり、やがて熟して黄色（オレンジ色）となるのです。それを食べないで置いておくと、山吹色にして橙色、黒色となり、小さくちぢんでやがてこの世を去ってゆきます。実はずっとみかんの色なのです。このようにみかんの色は移り変わっているのです。にもかかわらず、わたしたち人間は勝手なもので、食べて美味しい時のみかんの色だけを知識として頭においてしまっているのです。そして「みかんの色は黄色だ」が常識となっているのです。いつも黄色なのではないのに。しかしこどもの眼には事実がそのままに捉えられているのです。

移り変わりながらあるものは移り変わりながらあるものとして捉えなければ間違いをおかすのです。ブツは事実をありのままに捉えることを教えています。すべてのものは移り変わりながらあるのだからその通りにみなければなりません。それを正見と言います。一日々にかわってゆくこどもたちをしっかりと理解しながら、そこに何かを加えてあげることが大人、とくに親と呼ばれているわたしたちの務めであろうと思います。そして自分自身も変わっていつているのだということも忘れてはならないでしょう。家庭においてもこどもさんと共に育っていただくことをお願いします。